

平成30年度 水道事業会計決算概要



水道事業の会計は、事業経営に伴う収益的収支と、施設の改良事業に要する資本的収支から構成されています。平成30年度における収益的収支の収入額は23億9,508万3千円、支出額は19億8,929万7千円となりました。この結果、収入支出差引4億578万6千円が純利益となりました。純利益は、水道施設の更新や企業債（借入金）返済の財源に充てられます。

(平成31年3月31日現在)

給水人口	14万218人
給水普及率	100.0%
年間総給水量	1,629万5,024m ³
1日最大給水量	4万9,020m ³
1日平均給水量	4万4,644m ³

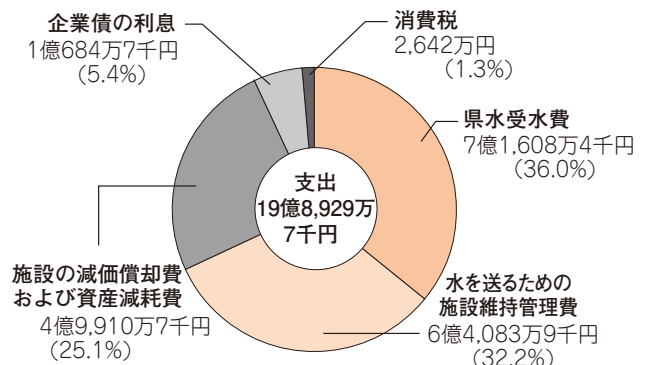
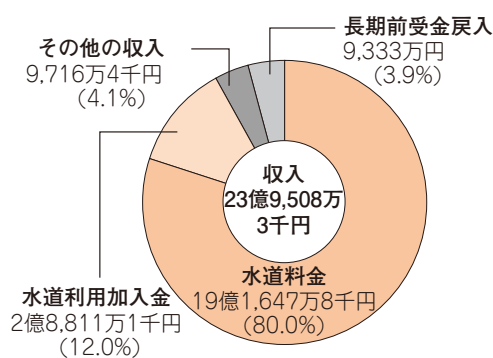
また、資本的収支の収入額は5億5,817万円、支出額は12億7,443万6千円となりました。差引不足額は、損益勘定留保資金（収益的支出の現金支出を伴わない資金）などで補てんしました。

問/水道経営課 ☎462-3366

●収益的収支（事業経営に伴う収入と支出）

収益的収入は、その約92%が水道料金と水道利用加入金で占められています。また、支出はその約36%を県水受水費が占め、そのほかは水を送るための施設維持管理費、施設の減価償却費などとなっています。

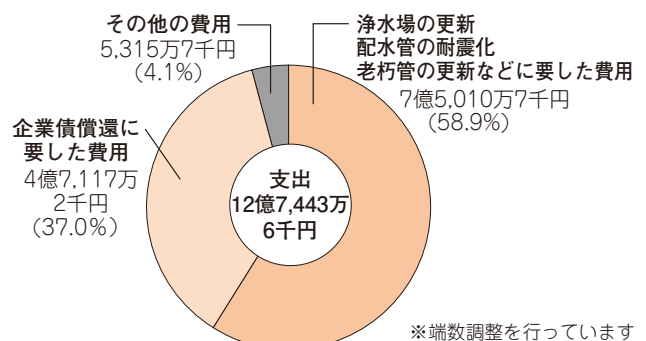
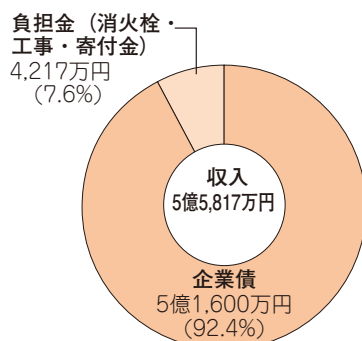
1 m³の水を皆さんにお届けするための供給単価は税込で135円92銭でした。これに対し給水原価は132円42銭で、3円50銭の利ざやになりました。



※端数調整を行っています

●資本的収支（施設の改良事業に要する収入と支出）

資本的収入は、企業債（借入金）が5億1,600万円で約92%を占めています。また、支出は、施設の建設改良事業費のほか、過去に借り入れた企業債の償還金が4億7,117万2千円となっています。これにより、平成30年度末の企業債未償還残高は、約48億5,191万円となりました。



※端数調整を行っています

●水道事業経営

水道事業は独立採算制で運営しています。事業経営に必要な費用は、市民の皆さんからいただく水道料金などの事業収入によって賄われています。

今後は、平成30年11月に策定した朝霞市水道事業経営戦略に基づき、毎年の決算状況等を確認し、次世代に過重な負担を強いることがないよう努めてまいります。

